

西ノ原第2遺跡  
上南方地区遺跡  
下大五郎遺跡  
長江浦地区遺跡  
八重地区遺跡  
三幸ヶ野地区遺跡

平成元年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書

平成2年3月

宮崎県教育委員会

西ノ原第2遺跡  
上南方地区遺跡  
下大五郎遺跡  
長江浦地区遺跡  
八重地区遺跡  
三幸ヶ野地区遺跡

平成元年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書

平成2年3月

宮崎県教育委員会

## 序

宮崎県内各地では、農業の近代化を図るため各種の農業基盤整備事業が実施されています。事業実施区内には遺跡が所在する 경우가多々あり、工事内容が面的なものの場合、遺跡へ影響が大きく、文化財の保護と農業基盤整備事業との調整が大きな課題となっています。県教育委員会では、ほ場整備等の区画整理予定地及び農道の新設地については発掘調査や分布調査を行い、遺跡の所在の有無、性格、範囲等の基礎資料を作成し、協議の際の資料としています。

本年度は、国富町井野、延岡市上南方地区、宮崎市西ノ原地区など10ヶ所で発掘調査を実施しました。本報告書は、その中の7ヶ所についての調査概要報告ですが、この成果が文化財の保護・活用に生かされ、また、地域の歴史研究、社会教育の場等で役立てていただければ幸いに存じます。

最後に、調査にあたって御協力いただいた地元並びに関係諸機関の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成2年3月

宮崎県教育委員会

教育長 児玉 郁夫

## 例 言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が国庫の補助を得て実施した平成元年度発掘調査の概要報告である。
2. 発掘調査は、宮崎県内の農業基盤整備事業に伴う遺跡の確認調査として実施した。
3. 遺跡の名称は、現在、遺跡として報告されていず、今回の分布調査等で確認された遺跡については、ほ場整備事業に使用された地区名を使用している。今後、本調査を実施した際各区の字等により命名する予定である。
4. 発掘調査は、県文化課主査面高哲郎、同穴戸 章、主任主事管付和樹が担当した。
5. 本書で使用した実測図は穴戸 章が作成し、トレースは面高哲郎が行った。
6. 本書の執筆・編集は、面高哲郎が担当した。
7. 出土した遺物は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで保管している。



## 本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
第Ⅱ章 発掘調査の概要	2
第1節 西ノ原第2遺跡	2
第2節 上南方地区遺跡	5
第3節 下大五郎遺跡外	9
第4節 長江浦地区遺跡	12
第5節 八重地区遺跡	16
第6節 三幸ヶ野地区遺跡	20

## 挿図目次

第1図 西ノ原第2遺跡トレンチ配置図	3
第2図 上南方地区遺跡(中尾原)トレンチ配置図	6
第3図 上南方地区遺跡(山口)トレンチ配置図	7
第4図 下大五郎遺跡外トレンチ配置図	10
第5図 長江浦地区遺跡A区トレンチ配置図	13
第6図 長江浦地区遺跡B区トレンチ配置図	14
第7図 八重地区遺跡トレンチ配置図	17
第8図 B地区第5トレンチ土層図	19
第9図 三幸ヶ野地区遺跡トレンチ配置図(A区)	21
第10図 三幸ヶ野地区遺跡トレンチ配置図(B～D区)	22

## 図版目次

図版1 西ノ原第2遺跡	4
図版2 上南方地区遺跡	8
図版3 下大五郎遺跡外	11
図版4 長江浦地区遺跡	15
図版5 八重地区遺跡	19
図版6 三幸ヶ野地区遺跡	23

# 第 I 章 はじめに

宮崎県内で実施されている農業基盤整備事業は、ほ場整備、特殊農地保全整備、農地開発、広域農道、農免農道、かんがい排水等の各種の事業が実施されており、この中には工事が面的なもの工事、線的な工事等がある。確認調査は、面的な工事のほ場整備、特殊農地保全整備等の予定地、線的な工事では広域農道等の道路新設予定地で実施したが、その個所は下記の通りである。

調 査 地	所 在 地	調 査 期 日
井 野 地 区	宮崎郡国富町大字八代北俣	平成元年 5 月 26・29 日
西ノ原第 2 遺跡	宮崎市大字熊野字西ノ原	平成元年 6 月 14 日～20 日
上南方地区遺跡	延岡市細見町字中尾原	平成元年 7 月 24 日～29 日
〃	延岡市細見町字山口	平成元年 10 月 11 日・12 日
新 田 原 遺 跡	児湯郡新富町大字新田字十文字	平成元年 9 月 13 日
下大五郎遺跡外	都城市丸谷町字下大五郎外	平成元年 12 月 5 日～ 8 日
長江浦地区遺跡	えびの市大字西長江浦字田中	平成 2 年 1 月 22 日～26 日
八重地区遺跡	宮崎郡田野町・八重地区	平成 2 年 2 月 5 日～ 9 日
三幸ヶ野地区遺跡	串間市大字一氏字三幸ヶ野	平成 2 年 2 月 26 日～ 3 月 6 日
鬼塚地区遺跡	小林市大字南西方字前鬼塚外	平成 2 年 3 月 12 日～16 日

## 第Ⅱ章 発掘調査の概要

### 第1節 西ノ原第2遺跡

#### 1. 遺跡の位置

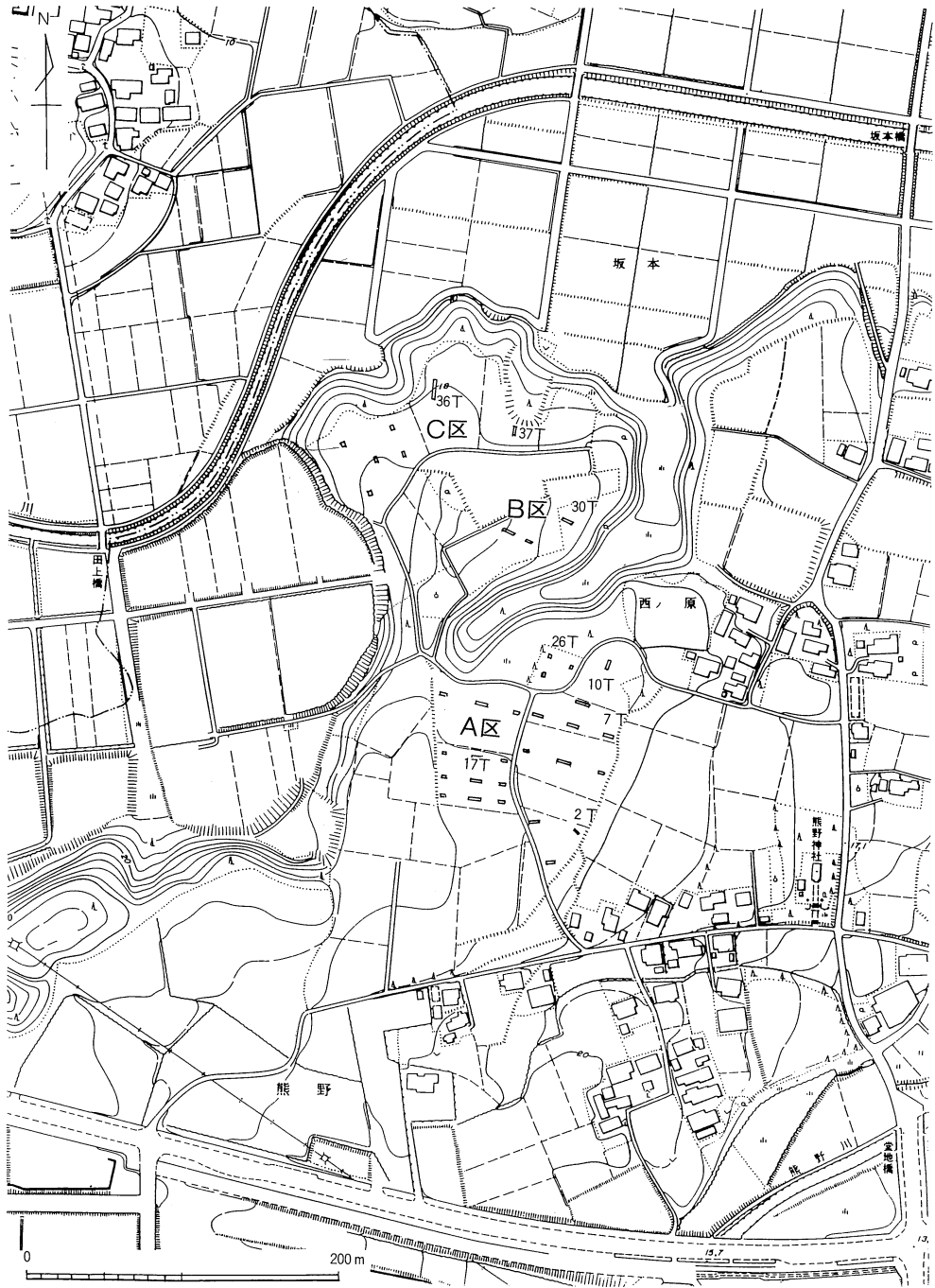
西ノ原第2遺跡は、宮崎市大字熊野字西ノ原に所在する。東方向へ緩やかに傾斜する台地の北縁に位置し、眼下に田上川が東ないし北流している。当台地には宮崎学園都市建設に伴い調査された堂地東、堂地西遺跡がある外、調査対象地の西直下の河岸段丘上には、昭和60年宮崎市教育委員会で県営南今泉地区ほ場整備事業に伴い調査された西ノ原遺跡が所在している。また、工事予定地内では以前に台地西縁で畑造成の際、経筒が出土している。

#### 2. 調査に至る経緯

熊野土地改良区では県営ほ場整備事業南今泉地区の隣接地の畑を県の補助をえて区画整理することになり、宮崎市耕地課から市の文化振興課へ文化財の所在の有無等について照会があった。市文化振興課では、計画地が西ノ原遺跡の隣接地であり、また、この台地上は堂地東、堂地西遺跡等が所在していたことから分布調査を実施した。計画地内のほぼ全域に遺物の散布が認められたので、遺跡の取扱いについて文化課へ協議があった。そのため、遺跡の性格及び所在状況等を確認するため、平成元年6月発掘調査を実施した。

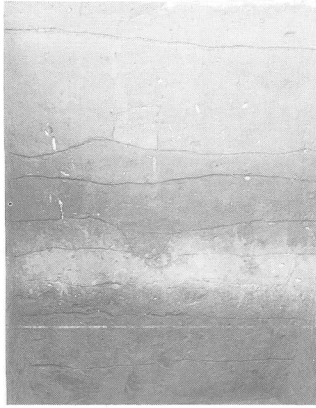
#### 3. 調査の方法と概要

調査対象地は、地形上A～C区の3区に分けられる。B区は、調査対象地の中で丘状地形で泥岩の層を基盤としており、A・C区の基盤はシラスとなっている。当地の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層アカホヤ、第Ⅳ層硬質の黒褐色土、第Ⅴ層暗褐色土、第Ⅵ層褐色土、第Ⅶ層礫を含む明褐色土となっているが、耕作等により土層の残存状況は場所によって異なる。A区の東縁は、地元により3mほど削平され、シラス層が露出している。調査は、1m×5mのトレンチを基本として設定した。A区では27か所トレンチを設定した。検出された遺構は、第2トレンチで平安時代の浅いピット様遺構、第7トレンチでは平安時代の時期と推定される竪穴住居跡である。また、明瞭な遺構は検出されていないが、第10、17、26トレンチの第Ⅴ層暗褐色土では、焼石が出土しているので縄文早期の集石遺構が存在すると推定される。B区では3か所のトレンチを設定したが、土層の残存状況は悪い。第30トレンチで石鏃、焼石が出土した。B地区では縄文早期の貝殻文土器が表採されている。C区では7か所のトレンチを設定した。第37トレンチの2次アカホヤで土器片、第36トレンチの暗褐色土で焼石が出土した。以上の調査結果から調査対象地には区によって異なるが、縄文早期・平安時代等の遺構、遺物が存在すると推定される。

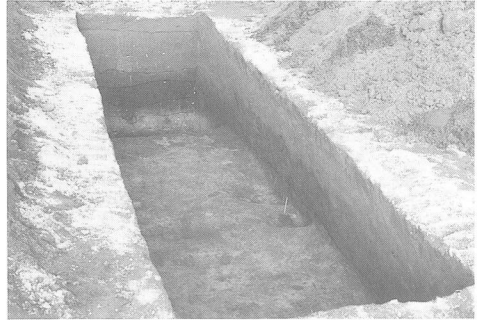


第1図 西ノ原第2遺跡トレンチ配置図

図版1 (西ノ原第2遺跡)



A区基本層序



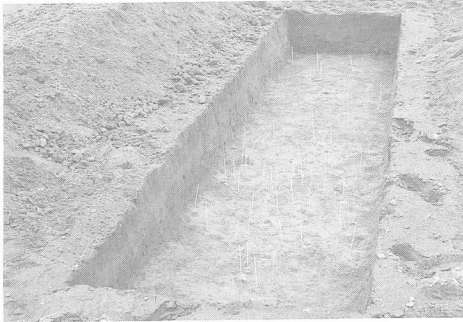
A区第2トレンチ



A区第7トレンチ



A区第10トレンチ



A区第17トレンチ



C区第36トレンチ



C区第36トレンチ



C区第37トレンチ



## 第2節 上南方地区遺跡

### 1. 遺跡の位置

上南方地区遺跡は、延岡市細見町、小川町外に所在し、国道218号の北側の台地或いは河岸段丘上に立地する。

### 2. 調査に至る経緯

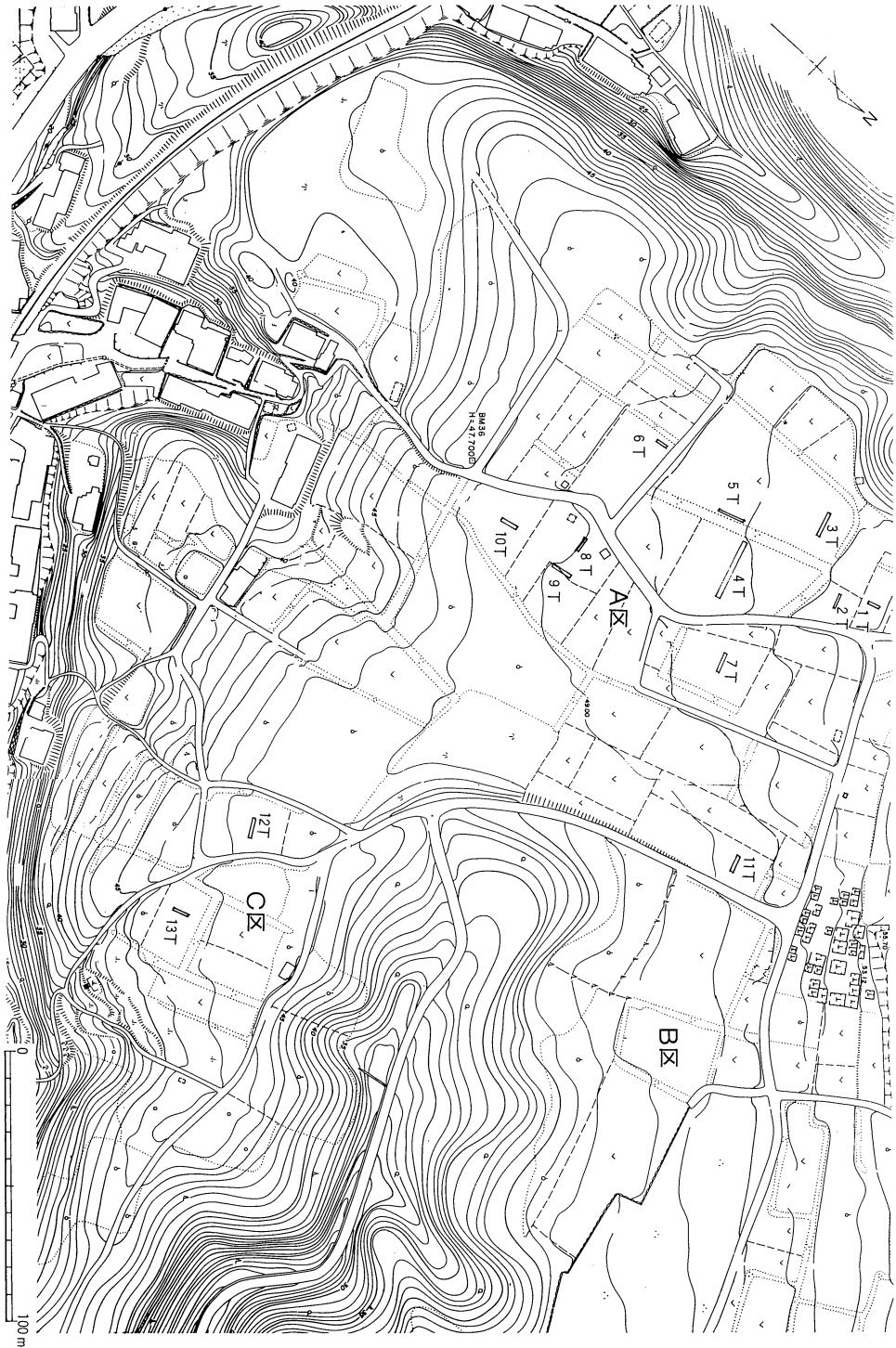
上南方地区では、現在、上南方地区県営ほ場整備事業が実施されている。当地区内の分布調査は、昭和63年度に実施して2台地上で縄文、弥生等の遺跡の所在が確認されていたが、平成2年度の工事予定が中尾原となっていたので平成元年7月24日～29日まで遺跡確認調査を実施した。その後、県東臼杵農林振興局から平成元年度に小川地区の河岸段丘上の畑部分を平成元年度に組み入れたいので遺跡の所在の有無の照会があった。照会地の分布調査をおこなった結果、土器小片の散布が認められたので平成元年10月11日・12日に2次の調査を実施し、地表下50～60cmで平安時代の遺物及び中世の遺構が確認された。協議により、この地の工事は平成2年度に実施することになった。なお、中尾原の航空写真には、古墳の周溝状のリングが4か所認められる。

### 3. 調査の方法と概要

上南方地区中尾原は、地形上A～C区の3区に分けて調査を実施した。A～C区のいずれの区にも遺物が散布するが、発掘調査を実施したのは、A・C区で、須恵器が散布するB区は、事情により調査を実施していない。

当地の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層やや褐色味のある黒色土、第Ⅲ層アカホヤ、第Ⅳ層小白斑を含む黒味の強い黒褐色土、第Ⅴ層小白斑を含むやや硬質の黒褐色土、第Ⅵ層暗褐色土、第Ⅶ層粘質の褐色土、第Ⅷ層縦方向に亀裂の入る硬質の黒褐色土である。

調査は、幅1mのトレンチを基本としてA区11か所、C区に2か所設定して実施した。その結果、A区では第4トレンチで古墳時代の時期と考えられる溝状遺構、第5トレンチで竪穴状遺構が検出された。遺物は、第1・3トレンチの第Ⅴ層黒褐色土で焼石、第11トレンチでは縄文後期の西平式系土器、第2トレンチの第Ⅱ層黒色土で布留式系と考えられる口縁部、第9トレンチでは第Ⅰ層耕作土からではあるが弥生土器等が多く出土した。B区は、現畑の部分で調査を実施しているが、調査地は耕作等により攪乱を受け、耕作土下は第Ⅳ層黒褐色土ないし第Ⅴ層硬質の黒褐色土である。遺物は、第Ⅰ層からではあるが第12トレンチで局部磨製石斧が出土した。以上より中尾原地区には、縄文～古墳時代の遺構等が存在すると考えられる。



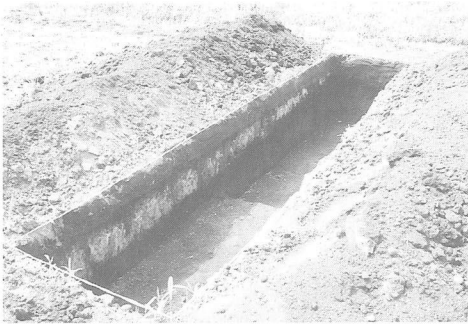
第2図 上南方地区遺跡（中尾原）トレンチ配置図

小川地区山口の調査は、6か所のトレンチを設定して実施した。当地の層序は基本的に第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層シルト質の暗褐色土、第Ⅲ層シルト質の褐色土で第Ⅱ層、第Ⅲ層に多くの雲母の混入が見られる。遺構は、墓地らしいものがあると指摘があった箇所（第4トレンチ）で五輪塔の埋納が確認され、遺物は第1・2トレンチの第Ⅱ層、第Ⅲ層で青磁、染付、土師器皿等の出土した。以上より小川地区山口には平安～中世の遺構等が存在すると考えられる。

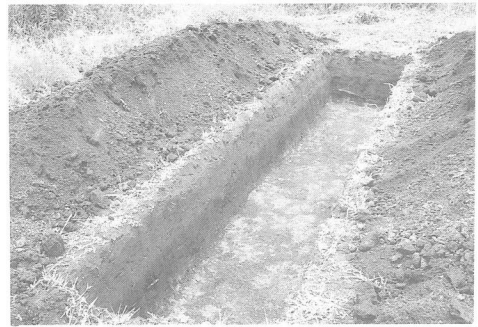


第3図 上南方地区遺跡（山口）トレンチ配置図

図版 2 (上南方地区遺跡)



中尾原A区第1 トレンチ



中尾原A区第2 トレンチ



中尾原A区第4 トレンチ



中尾原A区第4 トレンチ



中尾原A区第6 トレンチ



中尾原A区第11 トレンチ



山口第2 トレンチ



山口第4 トレンチ

## 第3節 下大郎遺跡

### 1. 遺跡の位置

都城市街地の北約 7.5km、霧島山より東方向にのびる台地間には丸谷川により形成された河岸段丘上が発達している。丸谷川の河岸段丘は、2段形成されており遺跡は丸谷川の右岸の下位段丘上に立地している。遺跡の北、丸谷川の左岸の上位段丘上には、昭和52年に県教委で発掘調査を実施した丸谷第1遺跡が所在している。

### 2. 調査に至る経緯

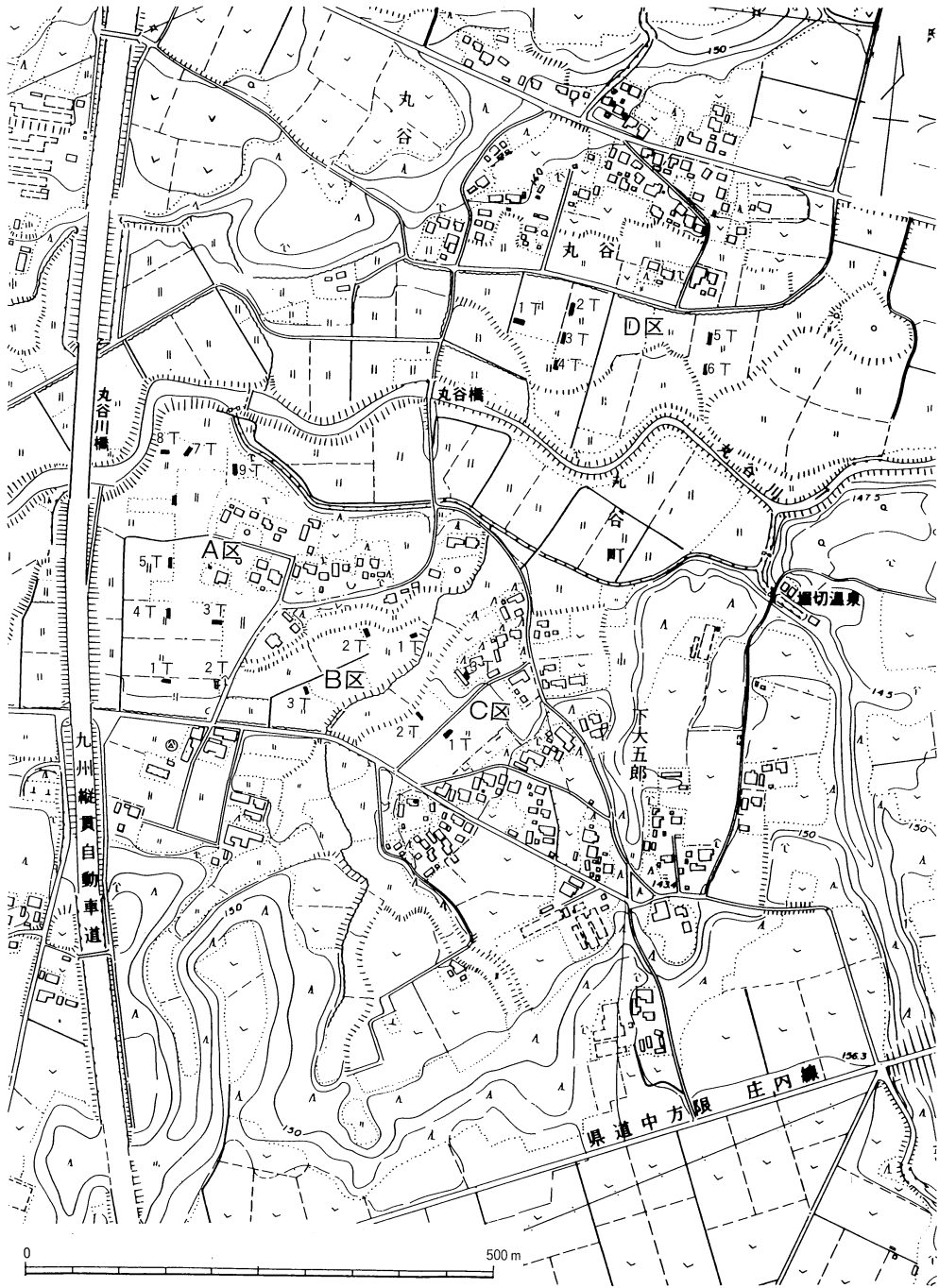
県北諸県農林振興局では、昭和62年度より丸谷川流域の水田のほ場整備事業(丸谷地区)を実施している。平成2年度工事予定地内に下大五郎遺跡、山ノ田第1遺跡が所在し、その他の遺跡が所在する可能性があったので分布調査を実施した。その結果、工事予定地内には2遺跡の外遺物散布地も確認されたので、遺跡の性格及び遺跡の残存状況確認のため発掘調査を実施した。

### 3. 調査の方法と概要

調査は、トレンチ法で実施した。山ノ田第1遺跡に含まれ、水田部分より1mほど高くなっている工事予定地の東端の果樹園部分は事情により発掘調査は実施していないが、土器などの遺物は散布している。調査対象地は、地形上4区に分けられる。また、基本層序は第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層軽石混じりの黒色土、第Ⅲ層黒色土、第Ⅳ層ボラ混じりの黒色土、第Ⅴ層御池ボラ層となっている。A区は下大五郎遺跡の部分である。土層の残存状況は概して良好で50～80cm下まで第Ⅲ層黒色土が残っているトレンチがあり、遺物も出土している。第6トレンチの第Ⅲ層黒色土で弥生後期頃と推定される土器、第9トレンチでは第Ⅲ層でヘラ切りの土師器皿、青磁等が出土した。第3、4トレンチの第Ⅲ層黒色土でも時期不詳の土器が出土している。なお、第5トレンチでは第Ⅰ層耕作土下は第Ⅴ層御池ボラ層である。B区は第Ⅰ層下は第Ⅲ層ないし第Ⅳ層ボラ混じりの黒色土で第3トレンチで土器1点出土したのみである。C区は基本層序は残存しているが、遺物等は出土していない。D区は、分布調査で確認した遺跡である。各トレンチの第Ⅰ層下は砂層や攪乱土等で一部に第Ⅴ層御池ボラ層が残存するのみであった。聞き取り調査でD区は、大正年間の耕地整理で第Ⅴ層御池ボラ層を水により丸谷川に流し出した事が判明した。各トレンチからは、第Ⅰ層ないし攪乱土で古墳時代の刻目突帯文土器等が出土するが、今回調査していない東端の果樹園部分以外は、プライマリーな包含層等は既に消滅していると推定される。

以上よりA区には弥生及び平安～中世、B区には分布密度は低いが弥生～古墳時代の遺構等が残存すると考えられる。



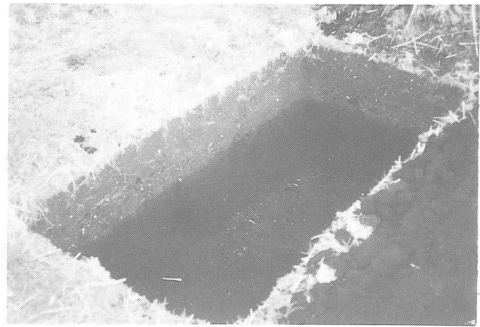


第4図 下大五郎遺跡外トレンチ配置図

図版 3 (下大五郎遺跡)



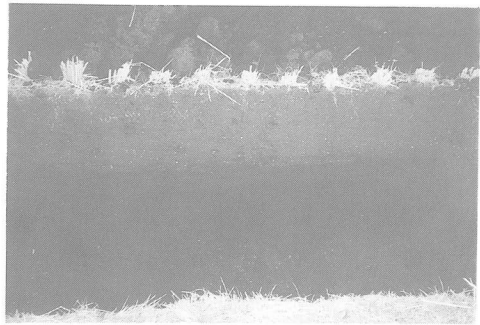
A区近景 (南東より)



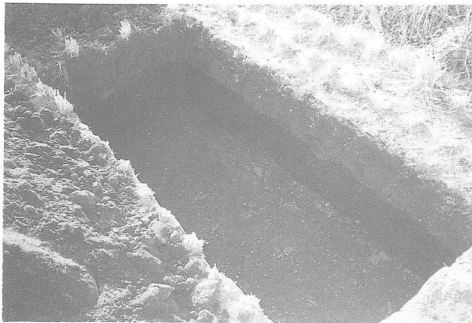
A区第3 トレンチ



A区第5 トレンチ



A区第6 トレンチ



B区第3 トレンチ



D区第1 トレンチ



D区第2 トレンチ



D区第4 トレンチ



## 第4節 長江浦地区遺跡

### 1. 遺跡の位置

長江浦地区遺跡は、えびの市役所の南約4km霧島山の麓、長江川の左岸の河岸段丘上に立地する。調査対象地は、北に向かって段丘状に低くなっており、標高約270mの段丘面をA区、標高約250mの段丘面をB区とした。B区の中央部は丘状の高くなり、A区との堺には水量の豊富な湧水があり、その水は農業用水として活用され、B区の西縁を流れている。

### 2. 調査に至る経緯

長江浦地区県営ほ場整備事業予定地の分布調査は、昭和62年度実施し遺物散布地を5か所確認していた。工事は平成2年度から実施されることになり、その予定地内に遺物散布地が含まれたので遺跡確認のための発掘調査を実施した。

### 3. 調査の方法と概要

調査は、1m×5mのトレンチは基本としてA区に7か所、B区に11か所設定した。調査対象地の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層褐色土、第Ⅳ層アカホヤ、第Ⅴ層カシワバン、第Ⅵ層明褐色土、第Ⅶ層褐色土、第Ⅷ層礫を含む褐色土となっており、第Ⅷ層の礫は下層になるほど径は大きくなる。B区の調査地の中では第Ⅳ層アカホヤは確認されていない。検出された遺構・遺物は、A区では第1トレンチで幅48cmの溝状遺構が検出され、その床面で縄文後～晩期の土器が出土した。第5トレンチでは、時期不詳であるが、若干掘り窪めた中に人頭大の河原石の集中が見られた。第7トレンチの第Ⅱ層黒色土では土器等が出土している。第5～7トレンチ周辺ではアカホヤが残存し、第4トレンチ周辺の畑には弥生以降の土器が散布している。第2トレンチ部分は旧谷部分である。

B区のトレンチではアカホヤは確認されず、耕作土下の層は、A区の第Ⅵ層明褐色土に相当すると思われる黄褐色土で、以下粘質の暗褐色土、礫を含む褐色土となっている。第5・6トレンチ部分は旧谷地形であつたらしく開田の際の盛土である粘質の灰褐色土が1mほど見られる。検出された遺構は、第1トレンチで長方形プランの土坑が検出され、埋土より中世の時期と考えられる瓦、土師器皿等が出土した。第4トレンチではピットが検出された。遺物は第1、2、4トレンチの黄褐色土で平安以降の土器が出土した。なお、第3、7～10トレンチ周辺は開田の際削平を受け、耕作土下は礫を含む褐色土で遺構等は残存しない。

以上の調査結果から調査対象地の全面ではないが、A区においては縄文以降、B区においては平安以降の遺構・遺物が残存していると推定される。



第5図 長江浦地区遺跡A区トレンチ配置図



第6図 長江浦地区遺跡B区トレンチ配置図



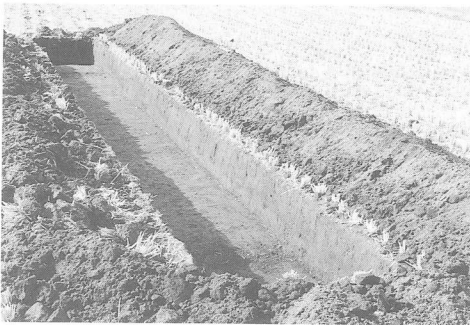
図版 4 (長江浦地区遺跡)



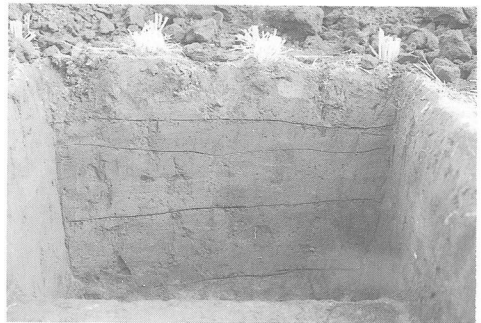
A区近景 (西より)



A区第1トレンチ



A区第6トレンチ



A区第6トレンチ西端



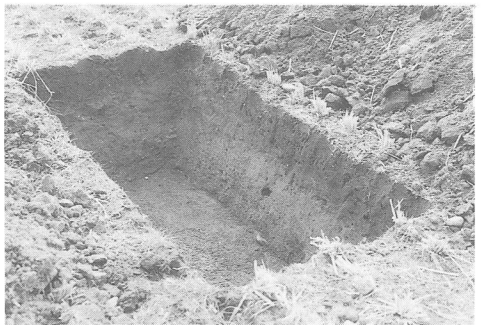
B区第1トレンチ



B区第2トレンチ



B区第4トレンチ



B区第7トレンチ

## 第5節 八重地区遺跡

### 1. 遺跡の位置

八重地区は、田野町街の西北西約 3.5kmに位置し、田野盆地の外輪山の一部にあたる台地上にある。当台地は、大半がシラスを基盤とし、谷が深く標高約 195mの丘陵性台地となっている。台地上は全面が平坦というわけではなく、浸蝕により丘状の地形を呈し、遺跡はこうした丘状地形の頂部或いはその緩斜面上に立地している。

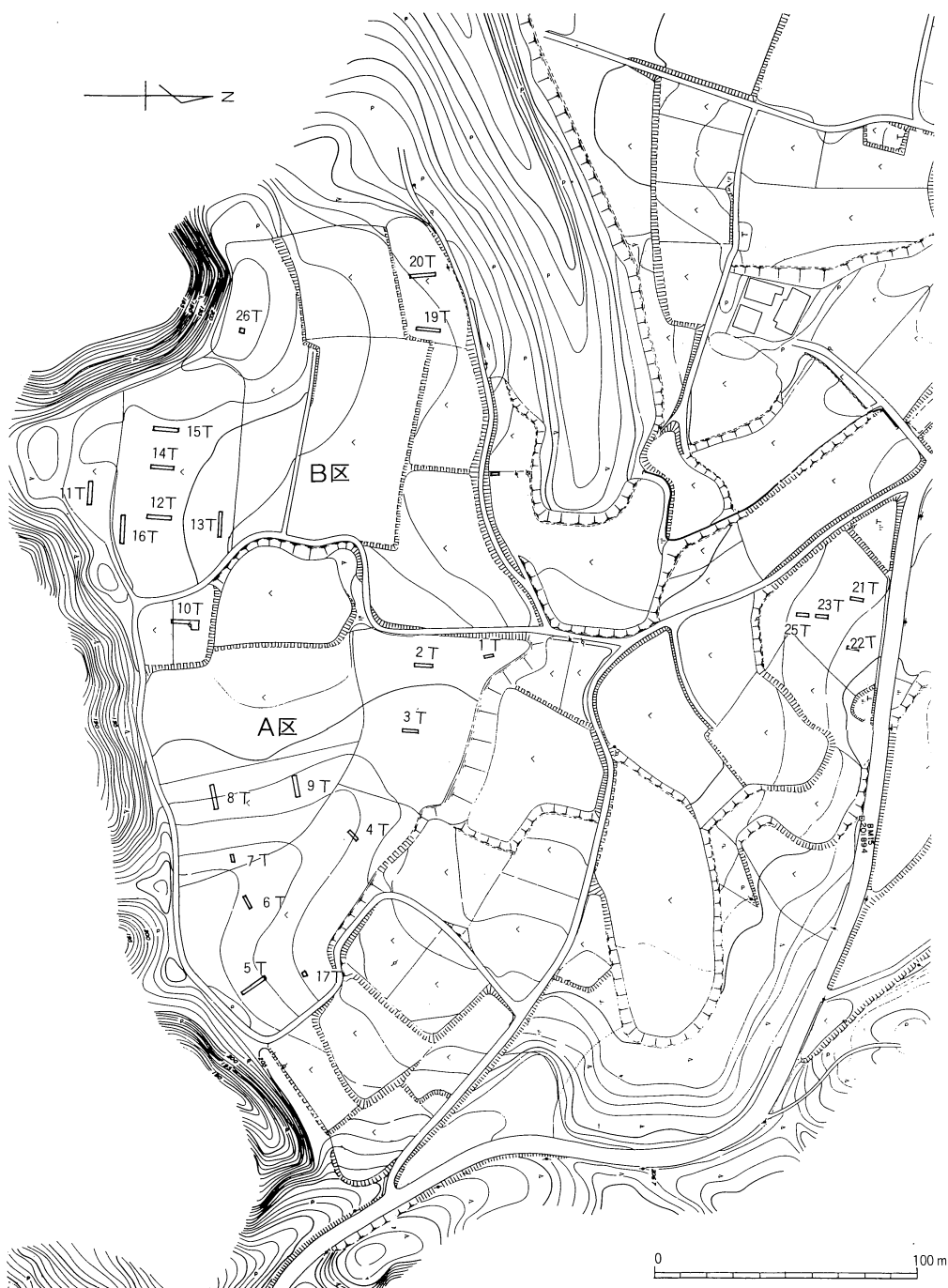
### 2. 調査に至る経緯

宮崎県中部農林振興局では、昭和62年度より八重地区において特殊農地保全事業を実施している。分布調査により工事予定地内では縄文時代の遺跡を主として10か所余りの遺跡が確認され、工事施工により影響を受ける遺跡については、昭和63年度から田野町教育委員会が随時発掘調査を実施してきている。平成2年度の工事予定地内においても縄文土器、焼石等の遺物散布地が所在していたので、遺跡確認のための発掘調査を実施した。

### 3. 調査の方法と概要

調査対象地は地形上A～C区の3区に分けられ、A区とB区の間には水の作用によると考えられる陥没部、A・B区とC区の間には浸蝕谷がある。当地の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層2次アカホヤ、第Ⅳ層アカホヤ、第Ⅴ層黒褐色～黒色を呈し、豆石様の黄褐色斑を含むカシワバン、第Ⅵ層白斑、黄褐色斑を含む暗褐色～褐色土、第Ⅶ層雲状に濃色部がある褐色土、第Ⅷ層小林ボラを含む硬質の黒褐色土となっている。地層の残存状況は工作等の影響により場所によって異なる。

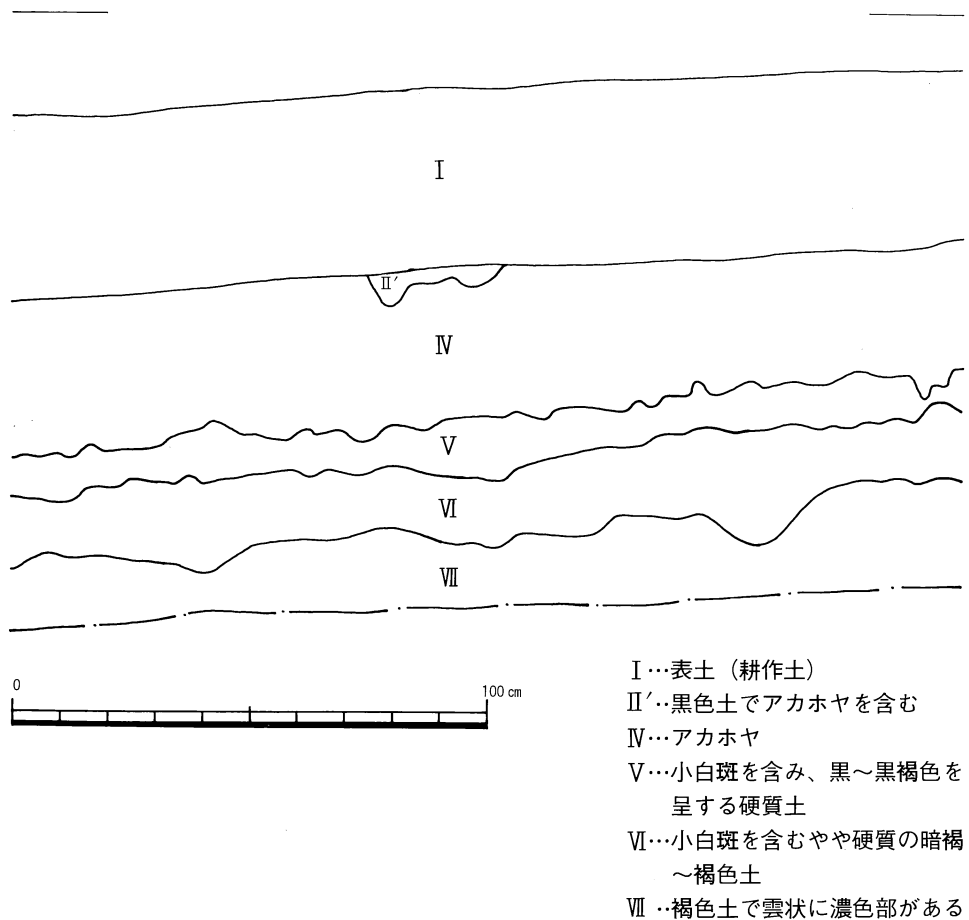
A区では、8か所にトレンチを入れて調査を実施した。当区は、焼石や土器片の散布が見られたが、畑造成等によりかなり削平を受けておりアカホヤが残存していたトレンチは、第1、5、17トレンチのみで、大半は耕作土下が第Ⅵ層暗褐色～褐色土ないし第Ⅶ層褐色土であった。包含層としてしっかりしていたのは、第5トレンチで、第Ⅵ層暗褐色～褐色土の中層で縄文草創期の隆帯文系の土器片、焼石が出土した。B区では作付けの関係で縁辺部に11か所のトレンチを設定した。当地区も畑造成により削平を受けて、一部はアカホヤは消滅していたり、基盤の岩盤が露出しているが、第10～12、14、15トレンチではアカホヤは残存している。第13トレンチでは、アカホヤは約 130cmほど下で確認され、第10～12、14、15トレンチ周辺は実際は尾根状の地形を呈すると考えられる。第16トレンチ周辺では、黒耀石のチップが多く散布している。当トレンチで第Ⅵ層暗褐色～褐色土上層で集積遺構



第7図 八重地区遺跡トレンチ配置図

が検出され、無文土器、黒耀石のチップ等が出土した。第15トレンチでは、第Ⅵ層から第Ⅶ層まで掘られた竪穴様遺構が確認され、無文土器が出土している。その他第10トレンチでは第Ⅵ層で塞ノ神式土器、第14トレンチでは第Ⅱ層黒色土で平安の布痕土器、粘板岩の剥片が出土した。第18～20トレンチは、耕作土下は、第Ⅵ層ないし第Ⅶ層で遺物等は特に出土していない。C区では4か所のトレンチを設定した。第21・22トレンチでは耕作土下は第Ⅲ層アカホヤである、第23・24では第Ⅲ層アカホヤは約1m下で第Ⅱ層黒色土が厚く堆積し、黒色土層中で御池ボラ、文明ボラ等が確認された。当地区は、現在、南面する緩斜面であるが、実際は谷地形であったと考えられる。

以上の結果からA区には縄文草創期、B区には縄文早期の遺構等が存在すると考えられる。



第8図 A地区第5トレンチ土層図

図版 5 (八重地区遺跡)



A区第5トレンチ



B区近景 (北東より)



B区第10トレンチ



B区第11トレンチ



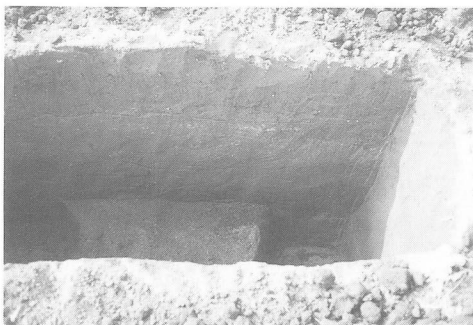
B区第16トレンチ



B区第16トレンチ



B区第15トレンチ



C区第23トレンチ



## 第6節 三幸ヶ野地区遺跡

### 1. 遺跡の位置

三幸ヶ野地区は、串間市街地の北東約9kmに所在し、溶結凝灰岩（灰石）を基盤とし、その上に成層シラス、礫層、日向ローム等がのる台地上にある。台地には面積20ha程で標高約94mのほぼ平坦な台地（通称三幸ヶ野原〈ミコウガンバル〉）と10haで標高約135mの中央部に浸蝕谷のはいる台地（通称上迫〈ウエザコ〉）がある。三幸ヶ野原の眼下には福島川が流れており、三幸ヶ野原と川との比高差は約50mでのり面は急崖となっている。

### 2. 調査に至る経緯

三幸ヶ野地区には、全国遺跡地図では上迫に縄文後期の遺跡「三幸ヶ野遺跡」が記載されている。三幸ヶ野原にも地形的に見て遺跡の所在が予想される場所である。宮崎県南那珂農林振興局では、昭和63年より県営特殊農地保全整備事業を実施している。三幸ヶ野原の20haが平成2年度の工事予定地となっていたので分布調査を実施したところ、台地の南北両端及び東縁で遺物散布地が確認されたので、試掘調査を実施した。調査の際、地元の方から北端では遺物等が出土しているとの情報も得た。

### 3. 調査の方法と概要

調査は遺物散布地を主に実施したので、便宜上南端をA区、東縁中央部をB、C区、北端をD区として記述する。調査は1m×5mのトレンチ法で実施した。三幸ヶ野原の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層御池ボラ混じりの黒色土、第Ⅳ層黒色土、第Ⅴ層アカホヤ、第Ⅵ層黒褐色土、第Ⅶ層暗褐色土、第Ⅷ層硬質の黄褐色土（桜島パミス?）、第Ⅸ層しまりのない暗褐色土、第Ⅹ層シルト質で下層ほど礫を含む褐色土となっている。当地では、層の残存状況は割に良く、第Ⅲ層御池ボラが残るトレンチが多く見られた。遺物は出土したが、遺構は検出されていない。各トレンチの遺物の出土状況は、A区の第4トレンチの第Ⅱ層黒色土で時期不詳の土器片、第1～3、9～11トレンチの第Ⅶ層暗褐色土で縄文早期の焼石、第1、2トレンチの第Ⅸ層しまりのない暗褐色土で縄文草創期の爪形文土器等が出土した。第9～11トレンチ周辺ではアカホヤ以後の土器片が散布しているが、包含層等は確認できなかった。B区では3トレンチの第Ⅶ層暗褐色土で縄文早期の土器、焼石が出土した。土器は、塞ノ神式土器や波状口縁で頂部に瘤をもち、口唇部の突帯上に縄文の押圧をもつものがある。C区では第16トレンチの第Ⅶ層暗褐色土で縄文早期の土器、焼石が出土した。D区は、地元でも遺物散布地として知られていた区で土器片が多く散布している。第18、19トレンチの第Ⅲ層御池ボラ混じりの黒色土から第Ⅳ層黒色土にかけて春日式系の土器が出土している。今回の調査ではアカホヤ下の層で遺物等は出土していない。



第9図 三幸ヶ野地区遺跡トレンチ配置図 (A区)

今回の調査では、A区には縄文早創期、早期の遺跡、B、C区には縄文早期、D区には縄文中期の遺跡が所在していることが確認された。



第10図 三幸ヶ野地区遺跡トレンチ配置図 (B～D区)

図版 6 (三幸ヶ野地区遺跡)



A区近景 (南西より)



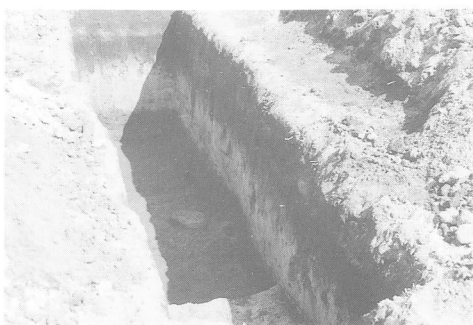
A区第1トレンチ



A区第2トレンチ



A区第8トレンチ



B区第14トレンチ



B区第14 トレンチ



D区第18トレンチ



D区第18トレンチ

平成元年度農業基盤整備事業  
に伴う発掘調査概要報告書

平成2年3月31日

発行 宮崎県教育委員会

編集 宮崎県教育庁文化課